



中心市街地の復興にかける思い



七日町中央通り商店街振興組合
代表理事 佐々木 愛一さん

将来ビジョン

平成二十五年三月、市から「大崎市中心市街地復興まちづくり計画」が示されました。その計画を受けて、私たちは具体的に何をやるべきか、商店街をどのようにしていくのか、を考えておく事が重要だと思いい、商店街の仲間と「七日町中央通り商店街将来ビジョン」の取りまとめを決意しました。

聞き取り調査

七日町商店街を分析してみると、将来的なメインターゲットは、六十代以上の周辺住民と二十代から四十代の子育て世代の女性、近隣の中学・高校に通

う生徒・学生に絞られるということが分かりました。

そのメインターゲットの皆さんを対象にして、徹底的な聞き取り調査を行い、今できる事は何か、不足している事は何か、再開発の可能性を探りながら整理を進めました。

気軽に集える街

できる事から始めようと、平成二十八年度までに駐車場の整備、集積型の店舗の設置を目標としました。具体的には、市の地域資源である農業を有効活用した産直所の設置、また、産直だけではなく、一歩進んだ加工ができるスペースや飲食スペースなども設置したいと考えています。

これまで、私たち商店主に行政職員を交えて、話し合いを重ねてきました。できる事は限られているかもしれませんが、私たちが知恵を出し合いながら進めていくことが重要です。

将来の七日町商店街は、商店がひしめき合うだけではなく、イベント広場などを設置し、皆さんが気軽に集える場として、ゆったりと歩きたい街になることを目指しています。

復興まちづくり

本市の中心市街地（市役所周辺からJR古川駅周辺までの地区）は、東日本大震災により甚大な被害を受けました。

市では、震災からの復興の取り組みとして、新たな中心市街地の再生を目指し、「大崎市中心市街地復興まちづくり計画」を進めています。

■主な事業

【広域防災・活動拠点整備】
防災広場の整備、夜間急患センター・健康管理センターの設置、広域消防署の移転など

【緒絶川周辺の景観整備】

観光情報センター機能の強化、石畳風舗装の整備、誘導灯・藤棚の増設、蔵の活用など

【七日町地区の小径とひろば整備】
災害公営住宅・集会施設の整備、産業集積の促進、官民協働による地区形成など

【まちなか回遊路・避難路】

歩道の拡幅、カラー舗装による車道分離、県道古川佐沼線・古川松山線の改良整備の促進など

【駅から新図書館周辺整備】

新図書館の建設、災害公営住宅・集会施設の整備、国道108号の歩道改良・無電柱化の促進など

きずな 絆でつなぐまちづくりシンポジウム ～大崎市のまちなか再生に向けて～

■日時
3月2日(日) 13時30分～16時30分

■場所
芙蓉閣（古川駅前大通）

■内容
【基調講演】
テーマ「絆で結ぶまちづくり～阪神・淡路大震災のコミュニティとまちなか再建～」、講師：山口一史氏
【活動報告】

古川中学校「古川の街づくりを考えるワークショップの活動報告」
宮城大学「中心市街地まち歩きワークショップ、まちづくりワールド・カフェの活動報告」

【パネルディスカッション】
テーマ「コミュニティ主体による持続可能なまちづくり」、コーディネーター：風見正三氏、パネリスト：山口一史氏、村田秀彦氏、玉野章浩氏、宮城大学・古川高校・古川黎明高校・古川工業高校 各1人
◎ 政策課政策企画担当 ☎ 23-2129

安全な道を目指して

一月二十四日、市と市内郵便局（古川郵便局、三本木郵便局、鹿島台郵便局、田尻郵便局、岩出山郵便局、川渡郵便局、鳴子郵便局、鬼首郵便局）の間で「道路情報に関する協定」を締結しました。

この協定は、市内の交通の安全・安心を確保することを目的に、郵便局の集配業務などの際、道路の危険箇所を確認したら情報を提供してもらい、道路の安全確保に取り組むものです。



路面の穴ほこ

郵便局が通常業務を行う中で往來する、市内全域の市道・生活道において、路面の穴ほこや段差、側溝のふたの破損などの危険箇所を発見した場合、市役所に連絡が入ります。連絡を受けた市役所では、速やかに現地を確認し、修繕などの必要な措置を講じ、その対応結果を郵便局に報告します。

この協定の締結により、多くの人々の目による道路危険箇所の発見が可能となり、対策がより素早くなることが期待できます。

皆さんも、市道や生活道に危険箇所を発見したら、建設課または各総合支所地域振興課までご連絡ください。

◎ 建設課道路維持係

または各総合支所地域振興課
☎ 23-8015



市役所本庁舎前広場での出発式